防まち こもんず

2022 November No.3

ツナガル×防災×まちづくり

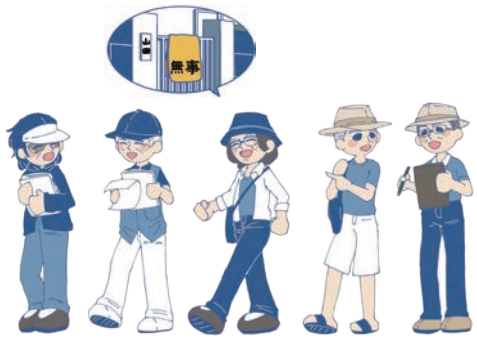
地域と一緒に進める川崎市の防災 まちづくり を伝える 情報誌

今回紹介する地域は、多摩川に面した二子橋のふもと、高津区の諏訪第二町会です。対岸の二子玉川までは、二子橋を渡って歩いて行ける距離。毎日多くの人が行き交います。橋に繋がる大山街道はおしゃれなベーカリーや雑貨屋で賑わい、少し道を入れば隠れ家的なお店も。新しいお店や住民が増えて活気が満ちる一方、昔ながらの家並みや畑も残っており、川沿いの明るく伸びやかな雰囲気も感じられます。散策するのが楽しいエリアです。

寒さの残る3月の朝、神社の社務所に町会役員が集まり、大量の防災グッズを並べていきます。グッズは、家庭用消火器とトイレ用凝固剤の2つ。諏訪第二町会では、家庭の備えを増やしてもらおうと、防災グッズの共同購入を行いました。水や食料を用意している人はだいぶ増えてきましたが、トイレ用の凝固剤はまだ少ないようです。予想を上回る多くの申し込みがありました。

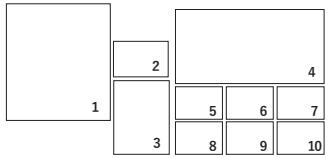
集まった人たち一人一人に声をかけながら、品物を渡していきます。コロナ禍で顔を合わせてのやりとりは久しぶりです。みんなついつい話し込んでしまいました。

後日小黒会長に話を伺ったら、「『町会ってこんな活動もやってるんだね、すごい、知らなかった』ってわざわざ言いに来た人がいたよ」、とちょっとうれしそうに話していました。



共同購入に続いて、4月には安否確認の訓練も行っています。災害が起きた時、玄関にタオルなどの目印を掲げて、周りの人に無事を知らせる訓練です。黄色いタオルを購入したり、お知らせを配ったりと、着々と準備を進めてきました。気になるのは、住民の反応です。町会として初めての訓練に、どのくらい

1・3・6・8・10/ 安否確認訓練でタオルを確認して回る様子
2/ 諏訪第二町会小黒武夫会長
4/ 共同購入の様子
5・7・9/ 軒先の緑がたくさんありました



人がタオルを掲げてくれるのか、予想がつきません。「それでもまずはやってみることが大事だと、役員の意見は一致していました。」（小黒会長）。

訓練当日、集合場所の交差点にメンバーが集まり、いよいよ回りはじめます。通りを見ると、タオルが掛かった家はちらほらとあるくらい。ちょっと心配になります。でも近づいてよく探せば、2階のベランダや窓ガラス越しにちゃんと黄色いタオルが掲げてあります。ほっと安堵して、1軒1軒、感謝の言葉を伝えて回ります。結局行く先々でタオルが見つかり、掲げた家は7割にもなりました。反響の大きさに手ごたえを感じて、8月にはエリアを変えて2回目の訓練を実施しています。一緒に回る参加者も増え、掲げた家はなんと9割に達しました。

その後、活動を通して知り合った方とは、往来で挨拶を交わすようになったそうです。災害が起きた時、被災地では顔見知りから助けたという話もあります。近くに知っている人がいる、そういったゆるやかな近所付き合いは、暮らしを少し楽しいものにしますし、安心や困ったときの助け合いにつながっていくようです。

防まちこもんず
2022年11月発行　第3号
発行／編集　川崎市まちづくり局
市街地整備部防災まちづくり推進課
TEL.044-200-3012